

2018 年度  
マンスリーレポート No. 37

4月になってセンター開設から3年が経過。定年退職した神代龍吉に代わって安達洋祐がセンター長になった。新しいメンバーに山田 圭(整形外科)と片山礼司(画像診断センター)が加わり、柏木孝仁・井上幸子とともに5人体制になった。使命は「学生と教職員の支援」であり、教務課との連携をさらに強化し、医学科の教育活動を積極的に支援する。

久留米大学の医療人育成を目的としてクリニカルスキル・トレーニングセンター(Clinical Skill Training Center, CSTC, トレセン)が開設された。臨床技能訓練を目的とした部署であり、医学科・看護学科・臨床検査専門学校(久留米大学病院)の学生、久留米大学病院の看護師・研修医・専攻医などが利用できる。規程では当センター内に属し(センター長は谷脇教授、副センター長は山田)、片山が専従で常駐する(総合診療棟8階)。

4月2日、メディカルアーツが開講した。昨年度の2年生(35コマ)と3年生(25コマ)に今年度は4年生(58コマ)も加わった(統括責任者は安達)。「医学・医療の全体像を知り、医術・医心・医道を学ぶ科目」であり、全118コマを24の講座部署、52人の教職員が担当。

4月5日、新入生オリエンテーションが始まり、1日目に柏木が「Moodle説明会」、3日目に安達が「大学での勉強」を担当した。

4月5日、SP(模擬患者)スタッフ会で年間スケジュールが決まった。第1~4回のSP養成セミナーは、向原准教授(医療センター総合診療科)がレクチャー、谷脇教授と安達が症候ミニレクチャーを担当。第5回は熟練SPによる講演会を開催して他大学SP参加も募る予定。

4月9日の教務委員会、4月11日の教授会で小委員会のメンバーが確定した。ほとんどの小委員会に当センターのメンバーが加わっている。カリキュラム委員会とは独立した委員会として「カリキュラム評価委員会」が設置され、安達が委員長、柏木と山田が委員になった。

第4学年の共用試験 CBT 不合格者は臨床実習(1月開始)に参加できないため、1~3月の学習支援として、月/水/金は MEC ビデオ講座を受講することが決まっていたが、当センターが管理・監督するとともに、火/木は「基礎力強化プログラム」を実施することが決まった。今後は准講会に説明して理解を求め、実施に向けた準備を進める。

これまで当センターに置かれていた医学部の教育用サーバーを教育3号館のコンピューター実習室に移動することになり、柏木が担当した。これによって教育用コンピューターのメンテナンスやシミュレーションが安全に行えるようになった。

4月23日~24日、パソコンを持たずキーボード操作を知らない新1年生のニーズに応え、柏木が基礎3号館でIT機器(タブレットやパソコン)の使い方に関する特別授業を行った。

4月26日、トレセンに備品を搬入した。すでに予約が入り、6月16日(土)「ファミリーキッズセミナー」(外科赤木教授)、6月17日(日)「院内認定コース」(看護部)がある。

文責：安達洋祐